

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ
http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/
E-mail:gyoren@kagawa-
gyoren.or.jp



JF 高松市北浜町 8 - 25
TEL 087-825-0350
J F 香川漁連 FAX 087-851-0699

憲法記念日の知事表彰 水産業振興功労者



松 田 興 一

元佐柳漁業協同組合代表理事組合長

松田氏は学業終了後、漁業に従事し、主に建網漁業、たこつばなわ漁業、サワラ流しさし網などを営んできた。

昭和34年に組合長に就任すると、組合事務所や共同利用施設等を開設し、組合員の漁業の近代化と、利便性の向上に努めるとともに、漁業資源が減少する中、養殖業の導入により、地区内漁業の多様化、活性化を図ろうと、タコ、カキ、ワカメ、ノリなどの養殖に取り組み、その進取の気性は他の組合員から高く認められ、組合長として長く推されることとなった。

また、多度津町高見漁業協同組合との合併についても、組合員の減少、高齢化していくなかで、危機感を持ち粘り強く合併の必要性を説き、平成16年11月に両漁協の合併を成し遂げた。

さらに、香川県漁船保険組合などの理事として、県下水産業の振興、漁船保険事業の普及拡大など、関係団体の発展と健全な運営に大きく貢献した。



田 島 貞 彦

詫間漁業協同組合代表理事組合長

田島氏は学業終了後、漁業に従事し、タイ釣などを営んだ後、昭和23年からはごち網漁業、昭和43年からはノリ養殖業に携わった。

昭和62年5月に箱浦漁業協同組合の組合長に就任後、漁業者の社会的地位の向上、生活の安定を図るため、港湾の整備、漁具倉庫等の整備を行った。この整備にあたっては、県・町・漁業者・地域住民の間に入って円滑な調整役に徹し、近代的な港湾整備の推進に大きく貢献した。

また、田島氏の漁業の中心であるごち網漁業は、江戸時代から続く、香川の伝統漁法であり、近代化された漁船や漁具だけではできない高度な知識と熟練した技を必要とする漁業であり、その技術には目を見張るものがある。

平成16年12月からは合併後の詫間漁業協同組合の代表理事組合長に就任し、現在もその要職にある。さらに、香川県漁業協同組合連合会、香川県信用漁業協同組合連合会の理事など、本県の水産業関係団体の理事として、県下水産業の振興、漁港漁場整備の推進などに努め、関係団体の発展と健全な運営に大きく貢献している。

7-サン100研究会開催 (野網和三郎生誕100年・ハマチ養殖80周年記念事業)

前号(576号)の漁連だよりでも紹介したとおり、平成19~20年にかけて「野網和三郎生誕100年・ハマチ養殖80周年記念事業」(以下「記念事業」という。)を実施し、4月9日にはその実行委員会が設立されました。そして、この記念事業の平成19年度事業として、生産強化のため、養殖ハマチの品質高度化対策や養殖ハマチの加工品開発対策、引田ブリの地域ブランド登録対策、直島漁協における生産情報公表JAS制度対策について、次の4つの研究会を立ち上げて、現在調査研究に取り組んでいます。

製品向上研究会

目的：飼料開発や実証試験等によってコストの縮減と、県産ハマチの肉質向上技術の開発。
設立：平成19年5月9日

加工品開発研究会

目的：県内養殖ハマチを原材料とした本格的な加工品の開発による、ブランド特産品化。
設立：平成19年5月7日

地域ブランド登録研究会

目的：地域団体商標制度を活用した、引田地区大型小割生簀2年魚ハマチ「ひけた鯺」の商標登録による、県産養殖ハマチの「ブランド力」の一層の向上。
設立：平成19年5月31日

生産情報公表JAS制度研究会

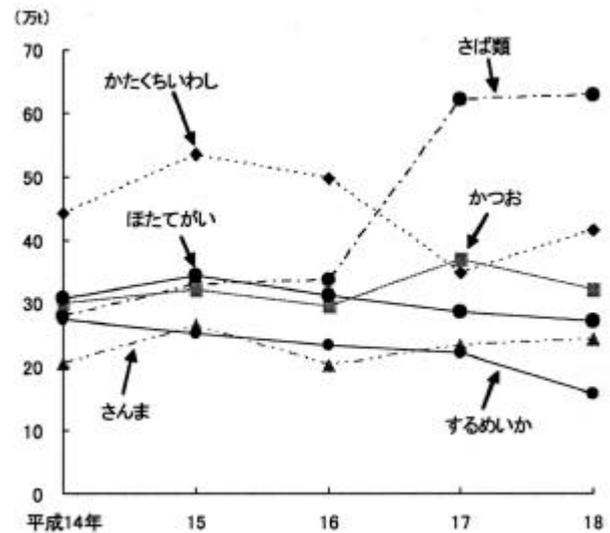
目的：平成19年度から同制度が養殖魚に導入されることから、すでにトレーサビリティの実績がある直島漁業協同組合における日本初の認定取得。
設立：平成19年5月11日

平成18年海面漁業・養殖業生産量(概数)

(全国)

農林水産省は、4月27日平成18年漁業・養殖業生産量(概数)を発表した。平成18年のわが国における海面漁業・養殖業の生産量は558万6千トンで、かたくちいわしが増加したものの、するめいか、かつお等がそれぞれ減少したことから、前年に比べ8万3千トン(前年比1.5%)減少した。一方、海面養殖業の収穫量は118万1千トンで前年に比べ3万1千トン(前年比2.6%)減少した。

海面漁業主要魚種別漁獲量の推移



海面漁業・養殖業生産量

単位：千t

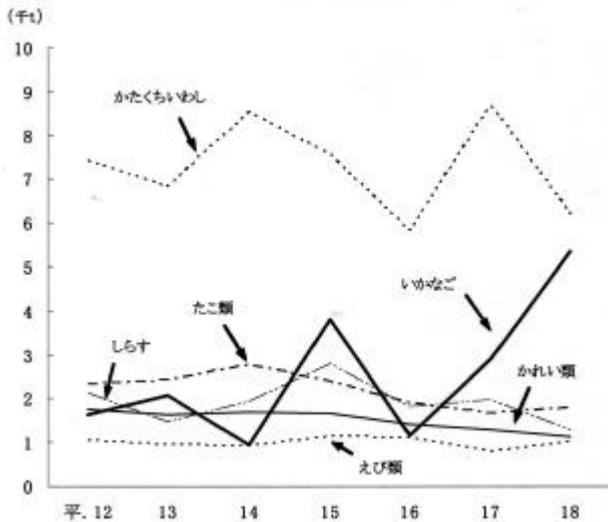
区分	H18年	H17年	対前年差	対前年増減率
計	5,586	5,669	83	1.5%
海面漁業	4,405	4,457	52	1.2%
海面養殖業	1,181	1,212	31	2.6%

(香川県)

中国四国農政局香川農政事務所は、5月8日平成18年香川の海面漁業・養殖業生産量(概数)を発表した。平成18年の香川における海面漁業・養殖業生産量は5万5,300トンで、前年に比べ9,359トン(前年比14.5%)減少した。このうち、海面漁業の漁獲量は2万2,800トンで前年に比べ856トン(3.6%)減少した。海面養殖業の収穫量は3万2,

500トンを、前年に比べ8,503トン(20.7%)減少した。海面漁業における主な魚種別漁獲量の順位は、かたくちいわし、いかなご、たこ類、しらす、かれい類となった。海面養殖業の魚種別動向は、前年と比べかき類、ひらめ等が増加し、のり類、ぶり、かんぱち、まだい等が減少した。

海面漁業主要魚種別漁獲量の推移



海面漁業・養殖業生産量

単位：t

区分	H18年	H17年	対前年差	対前年増減率
計	55,316	64,675	9,359	14.5%
海面漁業	22,836	23,692	856	3.6
海面養殖業	32,480	40,983	8,503	20.7

主な行事予定(6/1~6/30)

- 6月 1日(金) 漁連理事会
- 11日(月) 無線組合総会
海苔研総会
- 15日(金) 漁連推薦会議
- 21日(木) 漁船保険組合総代会
- 22日(金) JF共済推進本部総会
漁業共済組合通常総会
- 25日(月) 漁連総会
信漁連総会

新しい組合長紹介

(敬称略)

鶴羽漁協

新任 田中正雄
(平成19年3月23日)

退任 宇山光雄



トピックス

「西日本の魚なのに…北のサワラが大漁」青森

西日本で春を告げる高級魚のサワラ(鯖)の水揚げがこの10年ほど、青森県で急増している。暖かい海を好むサワラはかつて、ここではほとんどとれなかったが、昨年は水揚げ109トン記録。今年も漁港に銀色の魚体が輝き始めた。急増の原因として、専門家には地球温暖化の影響を疑う声もある。

21日、青森県三沢市漁協所属の漁船・北栄丸は、4カ所の定置網を引き揚げ、約500キロのサワラを水揚げした。船にたぐり寄せられたサワラには、体長1メートルの巨大なものも。青森県では、96年に3.3キロ取れたという記録がある程度なので、北栄丸を運営する組合の種市徳蔵組合長(75)は「50年間漁をしてきたが、4、5年前まで見たことがなかった」と目を丸くした。

サワラは南方系の魚で、西日本では高級魚で知られる。

三沢でも大型魚は1キロ2000円以上の高値で売れ、ヒラメに並ぶ高級魚だ。三沢など太平洋側には、日本海側のサワラが津軽海峡を経てきた可能性があるという。

気象庁によると、過去100年で、日本海の水温は1.6度上昇した。三沢市沖には津軽海峡を通じて、日本海の海水が流れ込む。漁獲高は年ごとに変動も大きいだが、広島大の上真一教授(海洋生態学)は「全国的にもっと豊富だった時も青森で水揚げがなかったサワラがとれているのは、地球温暖化の影響とも考えられる」と話す。

(2007年5月22日 asahi.comより)